

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

何故、中小企業融資は減るのか
(「BS革命」進行途上)

先頃、必要があって日本銀行のHPにアクセスし銀行の中小企業向け融資残高推移を調べてみました。もちろん大凡の動向は承知していたのですが、もう一度数値で確認しようと思ったのです。その数値推移の一部を下に転記してみました(個人向け貸出残高推移は比較のため載せた)。先ずはじっくりご覧下さい。(単位:兆円)

	総貸出残高	内設備資金	個人向
96/3 末	262.5	78.7	87.3
02/3 末	215.0	67.2	99.3
08/3 末	185.4	62.0	111.5
10/3 末	178.3	63.3	114.4
増減率	32.0%	19.5%	23.7%

96年3月を頭に持ってきたのは、その前後が中小企業向け貸出残高のピークだったからです。その時と今年3月を比べると上表の通り金額で84兆円、率で32%の減少となっています。設備資金は19%強、15兆円の落ち込みに留まっているので減少の8割強が運転資金ということになります。実に驚くべき数値です。それを補うべく、住宅ローン中心に個人向け融資拡充に力を注いできたが、中小企業向け融資の落ち込みをカバーするには程遠い状況だった、それが実相のように伺えます。これがここ14年の間に日本の中小企業金融の世界で起こった出来事ですが、一体何が原因でこのような結果となったのでしょうか。改めてその要因を探るのが本稿の目的です。

その前に銀行にとって更にショックなことが起こっています。貸出金利の低下です。貸出減少が顕著になる中、競合が一層激化しているのか貸出金利も大きく低下しているのです。前にも触れましたが、この4月、5月、銀行の新規短期貸出の平均金利が1%を割りました。長期新規貸出も1.3%前後となっています。この金利水準が何故ショックかと言うと、06年7月と08年3月の2回の政策金利0.5%引上げ前の所謂ゼロ金利時代の貸出金利をも下回る水準となってしまったことにあります。政策金利引上げにより、08年9月には、短期が1.7%台、長期が1.6%台迄上がったのですが、貸出減少に引きずられるようにずると下がっているのです。銀行の短プラ(都銀1.475%、大手地銀2.25%)は全く形骸化し、今では「プライム(最優

遇)」などという言葉自体空しく聞こえます。

では、何故中小企業向け貸出残高は減り続けるのでしょうか。

最も多く挙げられる要因は、私が見るところ2つあります。第一は、借り手サイドの要因である資金需要低迷です。景気全般が停滞する中、売上も増えず利益も出ない厳しい経営環境が続く、設備投資など前向きな資金需要が増える筈もない、というものです。そして第二には、貸し手サイドの要因です。不良債権の増加を恐れ銀行が融資に慎重になっているというものです。緊急保証などマル保融資であれば積極的に対応するが、物的担保や人的担保依存も難しくなりプロパー融資に臆病となっていると云うのです。金融仲介機能を一手に引き受ける銀行も舐められたものですが、まあ指摘の通りでしょう。

上記のように借り手側の資金需要低迷と貸し手側の業績不安企業への貸出回避が中小企業向け貸出減少の直接的要因であることは間違いありません。そうなのですが、それだけで片付けてはいけない何かもっと違う深い理由があるのではないかという思いを消せません。その理由を私なりに一言で表現すると「BS革命」となります。貸出減少の大半が運転資金であるという事実がそれを示しているように見えるのです。

日本企業は長くPL重視の経営を行ってきました。企業を評価する最も重要な尺度は1に売上高であり2に利益でした。経済成長とインフレ経済がそれを補強しました。そのせいか、中小企業に於いて、そして貸し手の銀行に於いても、貸出残がピークを付ける95、6年頃まではBSが省みられることは殆どなかったといって過言ではありません。それがその頃から反転し始めたのです。

経済成長が止まりデフレ化したことがその契機となりました。それまで魅力的に見えたBS上の資産は贅肉のように見えだし、キャッシュフロー重視に経営軸の変換を迫られたのです。キャッシュフロー重視は即ちBS重視です。そこから借入による資金調達を圧縮するという気の遠くなるような長い旅に出たのが日本の中小企業ではないでしょうか。これをBS革命と呼ぶとすると、この革命は未だ未だ終わらない進行途上の革命です。当然ながら、貸し手である銀行も貸出という名の資産を削減する道中にあるのです。これは短期的な経済変動などで戻るような簡単な動きではないように思いますが、皆様どう考えるでしょうか。

発信日: 2010.7.17 第615号

《複製・転載等にご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp